老舍珠玉

大修館書店

老舍珠

茶馆

龍鬚溝

西望長安

黎波 訳

訳者紹介

黎　波（れい・は）

京都大学卒，京都大学講師４年，東京大学講師27年

現在　早稲田大学講師　お茶の水女子大学講師

　　ＮＨＫラジオ中国語講座講師

訳　　書　老舎「ろん・しゅい・ごう」（創元社）

　　老舎「春華秋実」（弘道館）

　　巴金「ワルシャワの平和祭」（創元社）など

上演台本　曹禺「明るい空」

　　陳白塵「泥棒と泥棒」「結婚行進曲」ほか

老舎珠玉　茶館 龍鬚溝 西望長安　©Li・Po 1982

1982年12月20日　初版発行　　定価 2300 円

訳者　黎　波

発行者　鈴木敏夫

発行所　株式会社　大修館書店

(101) 東京都千代田区神田錦町3-24

電話 東京 03 (294) 2221 (大代表)／振替 東京 9-40504

印刷／壮光舎　製本／三水舎　装幀／鳥居満

3098-230320-4305　Printed in Japan

目次

茶館（三幕）……5
龍鬚溝（三幕六場）……97
西望長安（五幕六場）……187
＊　＊
老舎年譜……291
解説……297
地図　旧北京の街略図（「龍鬚溝」の舞台）……317
「西望長安」参考地図……318

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.

老舍珠玉

茶館
龍鬚溝
西望長安

茶館

（三幕）

人物

王利発（ワンリーファ）　男。わたしたちとはじめて顔を合わせるのは、彼がやっと二十歳を出たばかりのころ。父親が早く死んだので、年端もいかないのに裕泰茶館（ユイータイ）の主人になった。しっかりしていて、いささか利己的ではあるが、気立ては悪くない

唐鉄嘴（タンティエツウエ）　男。三十歳まえ。易者渡世、阿片吸み

松二（スウアル）　男。三十歳まえ。肝っ玉が小さいのにおしゃべり

常四（チャンスー）　男。三十歳まえ。松二の親友、二人とも裕泰茶館のとくい客。正直で、体格がよい

李三（リーサン）　男。三十歳あまり。裕泰茶館の下男。勤勉で、気立てがよい

二徳子（アルドオズ）　男。二十歳あまり。善撲営*に勤務している

馬五（マアウー）　男。三十歳あまり。耶蘇教信者の小ボス

あばたの劉（リュー）　男三十歳まえ。女衒、悪辣残忍

康六（カンリュー）　男。四十歳。北京郊外の貧しい百姓

でぶの黄（ホウン）　男。四十歳あまり。やくざの親分

秦仲義（チンチュウイー）　男。王の大家。第一幕では二十歳あまり。金満家の御曹子で、のちに維新派*の資本家になる

老人　男。八十二歳。身寄りがない

百姓女　女。三十歳あまり。小さな娘を売ろうとするまでに貧しい

小妞（シアオニュ）　女。十歳。百姓女の娘

龐太監（パン）*　男。四十歳。財産ができたので、女房を持とうと考えている

小牛児（シアオニウアル）　男。十歳あまり。龐太監の書生

宋恩子（スウンウンズ）　男。二十歳あまり。今で言う私服刑事

呉祥子（ウーシンズ）　男。二十歳あまり。宋恩子の同僚

康順子（カンシュウンズ）　女。第一幕では十五歳。康六の娘。売られて、龐太監の嫁になる

王淑芬（ワンシュフェン）　女。四十歳まえ。王利発の妻。亭主よりも公正で正直

お巡り　男。二十歳あまり

新聞売りの少年　男。十六歳

康大力（カンターリー）　男。十二歳。龐太監が買ってきた義理の息子のちに康順子と頼り合って生きる

林（リン）　男。三十歳あまり、脱走兵

陳（チェン）　男。三十歳。脱走兵。林の弟分

崔久峰（ツァイギウファン）　男。四十歳あまり。国会議員だったが、のちに仏門で修業する。裕泰経営の下宿屋に住んでいる

土官　男。三十歳

王大栓（ワンターシュワン）　男。四十歳前後。王利発の長男。人柄は正直

周秀花（チョウシューホワ）　女。四十歳。大拴の妻

王小花（ワンシアオホワ）　女。十三歳。大拴の娘

丁宝（ティンバオ）　女。十七歳。女給。度胸も見識もある

あばたの劉の倅　男。三十歳あまり。あばたの劉の子息、父親のなりわいを受け継ぎ、発展させる

電気料金徴収員　男。四十歳あまり

唐鉄嘴の倅　男。三十歳あまり。唐鉄嘴の子息、父親のなりわいを受け継ぎ、教祖になろうともくろんでいる

明親方（ミン）　男。五十歳あまり。宴会料理を一手に引き受ける板前

鄒福遠（ツォウフーユアン）　男。四十歳あまり。講談*の名人

衛福喜（ウェイフーシー）　男。三十歳あまり。鄒のおとうと弟子、はじめ講談を語っていたが、のちに京劇*にかわる

方六（ファンリウ）　男。四十歳あまり。ぼろ買い、ずるがしこい

じゃらじゃらの車（チョ）　男。三十歳前後。銀貨の売り買いをなりわいとする

龐四夫人（パンスー）　女。四十歳。下司で、皇后になろうとする。龐太監の四番目の男の嫁

春梅（チュウメイ）　女。十九歳。龐四夫人の小間使い

楊（ヤン）　男。三十歳あまり。雑貨売り

二徳子の倅　男。三十歳。二徳子の子息、用心棒

于厚斎（ユイホウチャイ）　男。四十歳あまり。小学校の教師、王小花の先生

謝勇仁（シェユンレン）　男。三十あまり。于厚斎の同僚

宋恩子の倅　男。三十歳まえ。宋恩子の子息、父親のなりわいの跡目を継ぎ、私服刑事をやる

呉祥子の倅　男。三十歳まえ。呉祥子の子息、私服刑事

を世襲する

ケチ公　女。十九歳。女給

沈(シェン)局長　男。四十歳。憲兵司令部某局局長

茶飲み客若干名　みんな男

給仕一人か二人　みんな男

難民数名　男も女もいれば、年寄り子供もいる

兵隊四、五人　みんな男

下宿屋の住人数名　みんな男

大*令行進兵七人　みんな男

憲兵四人　男

ぼけの楊(ヤン)　男。数来宝(シューライパオ)*うたい

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

第一幕

人物

王利発　あばたの劉　龐太監　唐鉄嘴　康六　小牛児　松二　でぶの黄　宋恩子　常四　秦仲義　呉祥子　李三　老人　康順子　二徳子　百姓女　茶飲み客甲・乙・丙・丁　馬五　小妞　給仕一、二名

とき

一八九八年（戊戌）の初秋、康有為（カンヨウウェイ）*、梁啓超（リアンチーチャオ）*らの維新運動*は失敗におわった。午前中

ところ

北京、裕泰大茶館

舞台

こうした大茶館は、いまはもう見られなくなった。何十年かまえには、どこの町でも一軒はあったものだ。ここでは茶を売り、手間のかからない軽食と料理も商っていた。鳥ずきの人たちは、毎日とらつぐみや鶯などの鳥かごを手にたっぷり散歩させてまわったあと、ここにやってきて足をやすめ、茶をすすり、そうして鳥にうたごえを披露させた。用談のある者や仲人口入れ屋も、やはりここにやってきた。その時分は、しょっちゅう殴り込みがあったが、しかしきまって双方のために調停を買ってでる顔利きがいるもので、三、四十人の用心棒は、仲裁人に口説きおとされて、みなで茶を飲み、爛肉麺（ランロウミェン）（大茶館の特別な食べ物、値段が手頃で、手早くできる）を食べると、それでまるくおさまったのであった。こんなわけで、ここは当時においては非常に重要な場所であり、なにかにつけやって来ては長いこと腰をすえることができたのである。

ここにいると、とびきりでたらめなはなしを耳にすることができた。どこそこの大蜘蛛がどのようにして化けものとなり、雷にうたれてしまったかというがごときである。珍妙な意見もここにいると聞けた。海岸全体に大きな塀を築けば、それで充分外国軍の上陸を食い止められるというようなものだ。ここではまたなにがしという京劇役者がついこのあいだ案出したなんとかという節回しだとか、阿片のもっともうまい煮つめ方だとかも聞けた。またここではなにがしという人が手に入れたばかりの掘りだし物——出土した扇子の玉の根付け、あるいは三彩の嗅ぎ煙草の壺を見ることもできた。これはまことに重要な場所で、まるっきり文化交流の場とすら言えるのであった。

わたしたちは、いまにこのような茶館におめにかかることになる。

入口を入ったら帳場とかまど——手間をはぶくために、わたしたちの舞台にはかまどはなくてもよい。うらで鍋に玉杓子のあたる音をたててていればこと足りる。部屋はだだっ広くて天井が高く、長机と四角机、長椅子と腰かけが並べてあって、みな客席である。窓ごしに裏庭が見え、日除けを高くかけた下にも茶席がある。部屋の中にも日除けの下にも鳥かごをかけるところがある。いたるところにべたべたと「莫談国事*」と書いた細長い紙が貼りつけてある。

二人づれの客がいる。名前は知らない。なかば目をとじ、頭をゆすり、拍子をとりながら低い声でうたっている。二、三人客がいる。名前はやはり知らない。素焼きの鉢の中のこおろぎに夢中になって見入っている。灰色の大衫*を着た二人連れは——宋恩子と呉祥子で、ひそひそ声で話しこんでいる。どうやら彼らは北衙門*のききこみ（密偵）のようである。

今日もまた殴り込みが一件もちあがった。話によると一羽の鳩をめぐるいざこざから、力ずくでな

ければかたがつかないというような悶着がひきおこされたのだそうである。もしほんとうに喧嘩をはじめたら、人命沙汰になるにちがいない。というのはかき集められた用心棒の中には善撲営の若い衆や庫兵*も入っていて、みなめっぽうに腕っぷしがつよいからである。さいわい本当におっぱじめることはない。双方とも手勢を集めきらぬうちに、調停を買って出る者があらわれたからで、——これから両陣営がここで顔を合わせることになったのである。ばらばらと入ってくる用心棒たちは、どれもこれもまなじりを決し、身軽ないでたちで、入ると裏庭に消えてゆく。

馬五が人目にたたない片隅で、一人腰かけて茶を飲んでいる。

王利発は帳場台の中にでんとおさまっている。唐鉄嘴が靴をひきずり、べらぼうに長くべらぼうに汚い木綿の大衫を身にまとい、耳には小さな紙切れを何枚かはさんで入ってくる。

王利発　唐先生、おもてをながしておいでよ！

唐鉄嘴　（みじめに笑い）大将、唐鉄嘴の顔をたててくださいな！　お茶をご馳走してくださるんなら、人相をみて進ぜよう！　手相は無料、一文もいただきません！

（有無を言わせず、王利発の手をひき寄せて）本年は光緒二十四年、戊戌（つちのえいぬ）。あなたはとって……

王利発　（手をさっとひっこめて）もういいよ、お茶はおごってやるから、その口上は並べなくていいんだ！　人相なんかみることはない、おたがいこの世間を渡る者は、わるい星の生まれときまってるのさ！　（帳場から出てきて、唐鉄嘴をかけさせる）かけな！　いいかい、あんたは阿片と縁を切ってしまわないことには、こんりんざい運が開けないんだぜ！　これはおれの見立てだけど、あんたのよりよっぽどあらたかだよ！

松二と常四がそれぞれに鳥かごを提げて入ってくる。王利発が二人にあいさつする。二人はまず鳥

かごを掛け、席を見付けて腰をおろす。おっとりした松二は、小さな鶯のかごを、凛凛しい常四は、大きなとらつぐみのかごを提げている。給仕の李三がすかさずやってきて、ふた付き湯呑みに茶をいれる。二人は茶の葉を持参している。茶がはいると、松二と常四はそばの客にかるくすすめる。

松二　いかが！　（そのあと裏庭の方にちらっと目をやり）

常四　またなにかあるようだね？

松二　どっちみち立ち回りにはなりゃしないよ！　本当にやるのなら、とっくに城外へ行っちゃってるさ、茶館に来てどうするんだい？

用心棒の一人、二徳子がちょうど入ってきて、常四の言葉を耳にはさむ。

二徳子　（寄ってきて）それは誰にいちゃもんつけてるんだい？

常四　（したてに出るのをこころよしとせず）わたしに聞いているのかね？　金を払って茶を飲んでいて、人に指図されるすじあいはないだろうが。

松二　（二徳子をしげしげと見て）失礼ですが、営のお役人さんですね？　さあ、かけてお茶をいただきましょう、わたしらも世間に出す顔なんですから。

二徳子　役人だろうとなかろうとおまえの知ったことか！

常四　威張りたかったら、毛唐相手にやっていらっしゃい、毛唐はてごわいぞ！　英仏連合軍が円明園を焼き払ったが、貴殿はおかみの禄を食んでおられるのに、そいつらと一戦まじえるのをついぞ見かけませんでしたな！

二徳子　毛唐をやっつけるやっつけないはさておいて、まずおまえにお行儀を仕込んでやろう！　（腕力をふるおうとする）

ほかの客は相変わらずそれぞれ自分のことに余念がない。王利発がいそいで駆けつけてくる。

王利発　みなさん、みんな世間であわせる顔だ、おちついて話しましょう。徳旦那、あなたは裏の方へどうぞ！

二徳子は王利発の言葉に耳もかさず、パッとふた付き湯呑みを払いのけ、湯呑みはこわれる。返す手で常四の衿をつかみかかる。

常四　（身をかわし）なにをするんだ？

二徳子　なにをするだと？　毛唐に手出しできないからって、おまえにも手出しできないことはあるまい？

馬五　（腰かけたままで）二徳子、たいした威勢だな！

二徳子　（ぐるりと見回し、馬五を見付け）これは、馬五さん、こちらでしたか？　ついうっかりして、おみそれしました！　（そばに行き請安（チンアン）をする）

馬五　用があったらおだやかに話すものだ、なんだってすぐ手荒な真似をするんだろうね？

二徳子　はっ！　おっしゃるとおりで！　ちょっと裏へまいりますんで。李三、こちらのお勘定はおれが申し受けたぞ！　（裏の方へ歩いてゆく）

常四　（そばに寄っていき、馬五に不平をこぼそうとする）こちらさんはものの分かる方だ、理非を聞かせてください！

馬五　（立ちあがり）わたしはまだ用があるので、では！（出てゆく）

常四　（王利発に向かって）へんだね！　いやはや変わったご仁だ！

王利発　あれが馬五旦那ということをご存知なかったんですか？　道理であなたもあの人の気を悪くしておしまいになったわけだ！

常四　わたしもあの人の気を悪くしてしまったって？　今日は出かけるのによく日をえらばなかったんだ！

王利発　（声をひそめて）さっき旦那は毛唐がどうのこうのとおっしゃったけど、あの方はその毛唐の飯を食っていらっしゃるんですよ。耶蘇で、異人言葉をしゃべって、なにかあれば宛平（ワンピン）県の知事さまのところへも出入り御免だ、だからお役目筋でさえあの方には一目おいてる

んですよ！

常四　（もとのところにもどりながら）ふん、おれは毛唐の飯を食っている奴には、感心しないね！

王利発　（宋恩子と呉祥子の方を頭で示し、小声で）言葉に気をつけてくださいよ！　（大声で）李三、こちらにもう一度お茶をいれてくれ！　（床の湯呑みのかけらを拾う）

松二　湯呑みはいくらするんだい？　弁償するよ！　れっきとした男は女どもの真似はしないものだ！

王利発　すぐでなくても、のちほどお勘定いたしましょう！　（去る）

女衒のあばたの劉が康六を連れて入ってくる。あばたの劉の方から、松二、常四にあいさつする。

あばたの劉　おふた方ともお早いですね！　（嗅ぎ煙草のつぼをとり出し、煙草を出す）これちょっとやってみませんか？　つめたての、正真正銘のイギリス製、きめは細かで混り物なし！

常四　ああ！　嗅ぎ煙草まで輸入しなきゃならないのか！　こんなことじゃあどれだけの銀が国外へ流れ出ていってしまうことか！

あばたの劉　わたしらの大清国には金山銀山がいくらでもあるんだ、いつまでいっても使いきれやしませんや！　ごゆるりと、わたしはちょっと野暮用で！　（康六を連れて席を見付ける）

李三が茶を一つ持ってくる。

あばたの劉　言ってみな、銀子十両でどうだい？　はきはきしろよ！　おれは忙しくて、あんたのお相手ばかりしておれねえんだ！

康六　劉さん！　十五にもなった娘っこが、たったの十両なんですか？

あばたの劉　女郎屋に売りとばしたら、一両か二両よけいもらえるかもしれないよ、だけどおまえさんはそれがい

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.